

令和6年度 第2回 南城市地域公共交通会議資料

Nバス及びおでかけなんじいの運営経費

令和6年8月30日

南城市地域公共交通会議

1 N バス及びおでかけなんじいの運営経費(収支)の推移

- N バスの運賃収入は、利用者数の増加とあわせて増加傾向で推移しており、支出も減少していることから、収支は令和 2 年度の約 1 億 2,200 万円の赤字から、令和 5 年度は約 9,600 万円の赤字へと改善されています。
- おでかけなんじいの収入は 1,500 万円前後で安定していますが、支出は、令和 2 年度以降、徐々に増加しています。これに伴い収支は、令和 2 年度の約 2,400 万円の赤字から令和 5 年度は約 3,100 万円の赤字へと赤字額が増加しています。
- 両者をあわせた収支の赤字額（南城市の財政負担額）は、減少傾向ではありますが、令和 5 年度で約 1 億 2,700 万円に達しています。
- なお、N バスの収入にはバス停オーナー制度及び特定の事業に対する補助金収入が、おでかけなんじいには、国のフィーダー系統補助金が含まれており、おでかけなんじいの収入の約 2/3 は、補助金が占めています。

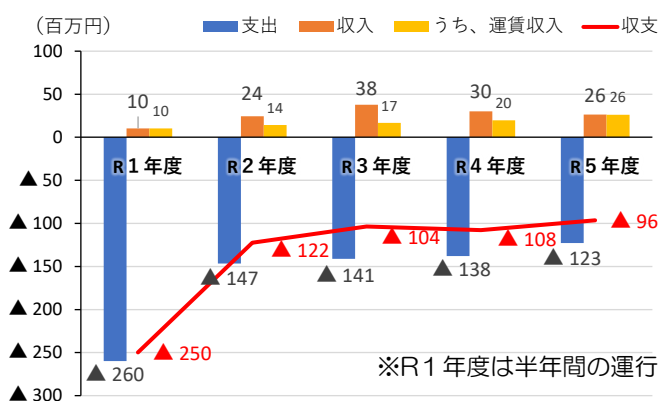


図-1.N バスの収支の推移

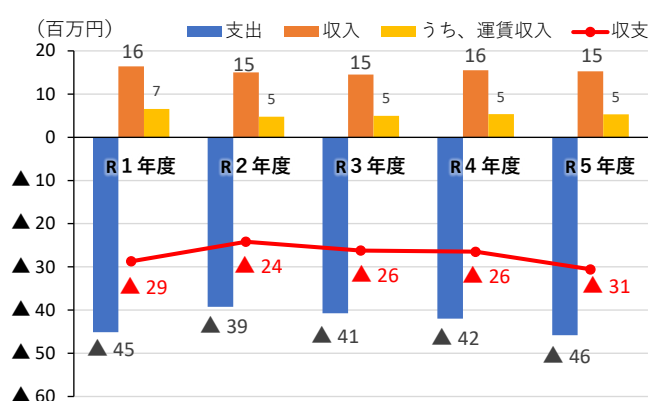


図-2.おでかけなんじいの収支の推移

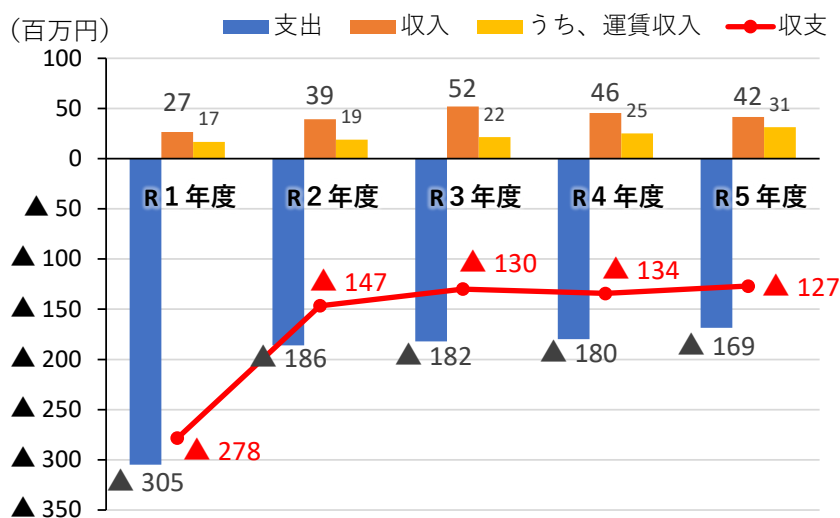


図-3.N バス及びおでかけなんじいの収支の推移

2 Nバス及びおでかけなんじいの運営経費の内訳

2.1 .Nバス

- 「運営経費」は、運行に必要な運転手の人件費、燃料費等の「運行経費」と、設備投資や利用促進のための広報活動費等の「その他経費」に分けられます。
- 導入初年度の令和1年度は、車両購入、システム構築費等による支出が大きく、約2億1,200万円のその他経費を要していましたが、令和2年度以降は減少しており、令和5年度はシステム保守等による約3,200万円となっています。
- 運行経費は令和2年度以降やや増加傾向にあり、令和5年度は約8,700万円となっています。
- 運行経費は増加傾向、その他経費は減少傾向、全体の運営経費は減少傾向で推移していますが、令和2年度以降、利用者数は年々増加しており、令和5年度は185千人/年と令和2年度の93千人/年の約2倍にまで増加しています。

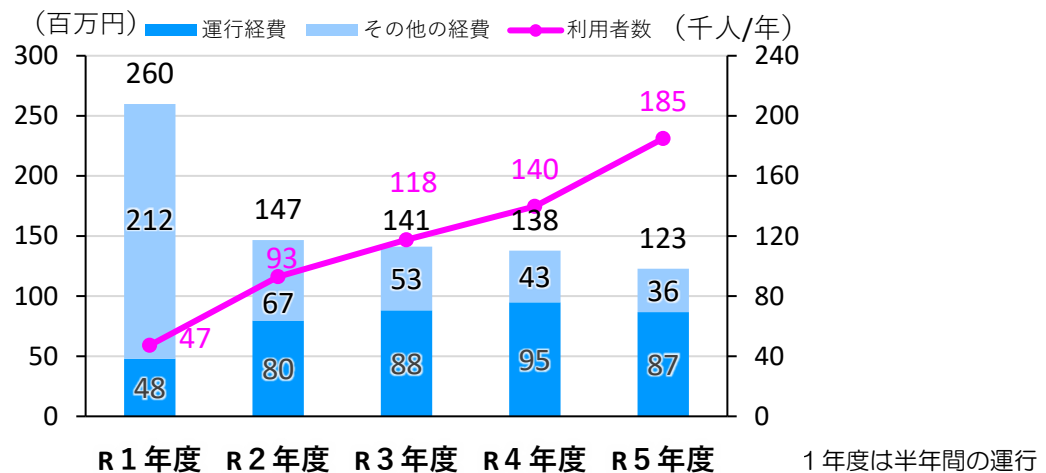


図-4.Nバスの運営経費と利用者数の推移

表-1.Nバスの運営経費の推移

年度	運営経費（千円）			主なその他経費の費目
		運行経費 （千円）	その他経費 （千円）	
R1年度	259,845	47,943	211,911	Nバス運行に向けた費用(Nバス購入7台、システム構築費用、バス停設置、バスマップ製作など)、各種システム保守、公共交通アテンダント業務 など
R2年度	146,686	79,661	67,025	Nバス購入1台、利用促進システム導入、各種システム保守、公共交通アテンダント業務 など
R3年度	141,243	88,248	52,995	キャッシュレス決済導入、デジタルチケット導入、公共交通アテンダント業務 など
R4年度	137,900	94,805	43,095	Nバス購入1台、各種システム保守、公共交通アテンダント業務 など
R5年度	122,789	86,720	36,069	各種システム保守、公共交通アテンダント業務、Nバス運賃支援事業負担金 など

2.2 おでかけなんじい

- おでかけなんじいの運営経費の大半は運行経費が占めており、令和5年度では全支出約4,600万円の87%にあたる約4,000万円を占めています。
- その他経費はシステム保守、システム使用料等で約200～600万円で推移しています。
- 運営経費はやや増加傾向で推移していますが、利用者数も運営経費同様に、令和2年度以降は増加傾向で推移しています。

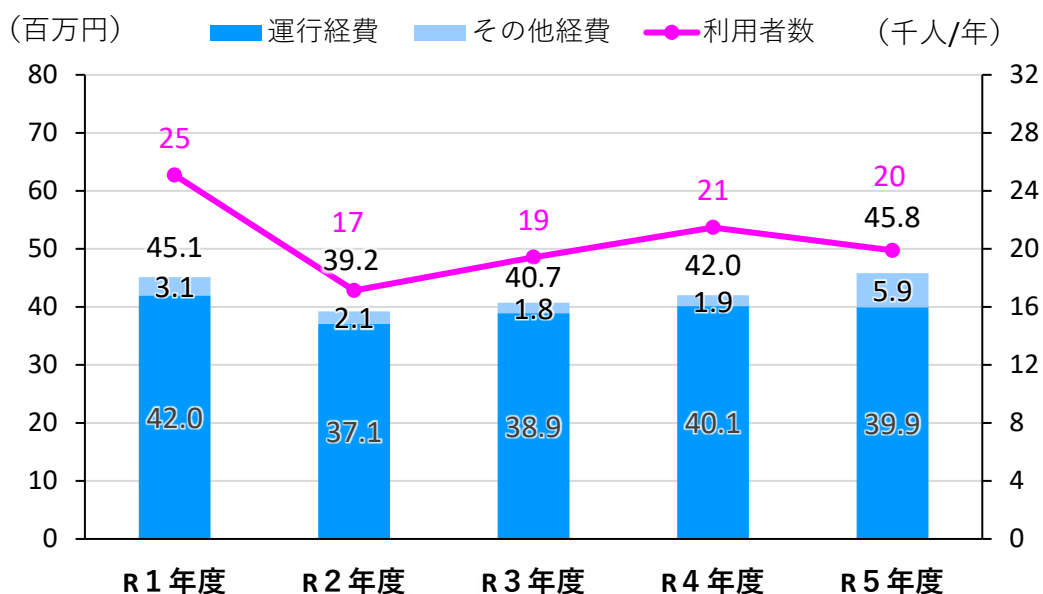


図-5.おでかけなんじいの運営経費と利用者数の推移

表-2.おでかけなんじいの運営経費の推移

年度	運営経費 (千円)			主なその他経費の費目
		運行経費 (千円)	その他経費 (千円)	
R1年度	45,120	41,980	3,140	各種システム保守、使用料など
R2年度	39,219	37,083	2,136	各種システム保守、使用料など
R3年度	40,723	38,917	1,806	各種システム保守、使用料など
R4年度	42,000	40,138	1,862	各種システム保守、使用料など
R5年度	45,807	39,933	5,874	各種システム保守、使用料、デマンド交通システム更新 など

3 Nバス及びおでかけなんじいの収入の推移

3.1 Nバス

- Nバスの運賃収入は、利用者数の増加に伴い運賃収入が増加しており、令和2年度の約1,400万円から令和5年度は約2,600万円と約800万円増加しています。
- 令和2年度から令和4年度は、コロナ交付金、バス停オーナー制度によるその他収入が約1,000万円～2,100万円ありました。

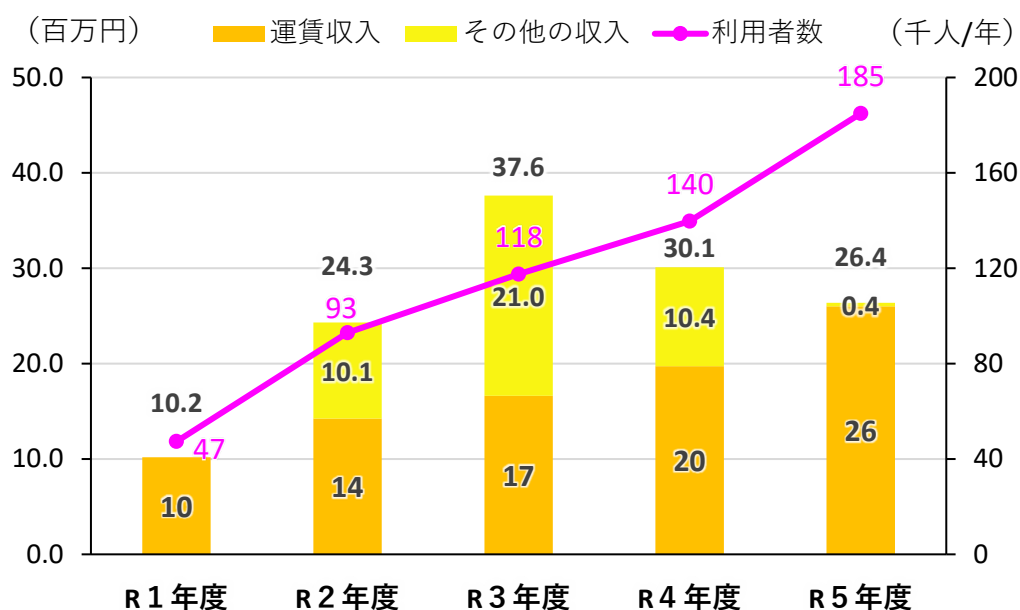


図-6.Nバスの収入と利用者数の推移

表-3.Nバスの収入の推移

年度	収入 (千円)				主なその他経費の費目
		運賃収入 (千円)	Nバス運賃 支援事業 (千円)	その他収入 (千円)	
R1年度	10,171	10,171	-	0	
R2年度	24,317	14,236	-	10,081	バス停オーナー、コロナ交付金
R3年度	37,622	16,629	-	20,993	バス停オーナー、コロナ交付金
R4年度	30,095	19,735	-	10,360	バス停オーナー、Nバス購入補助
R5年度	26,371	26,011	4,223	360	バス停オーナー

3.2 おでかけなんじい

●おでかけなんじいの収入は、再編後の令和2年度以降横ばいで推移しており、運賃収入は500万円前後、フィーダー系統補助は1,000万円前後で推移しています

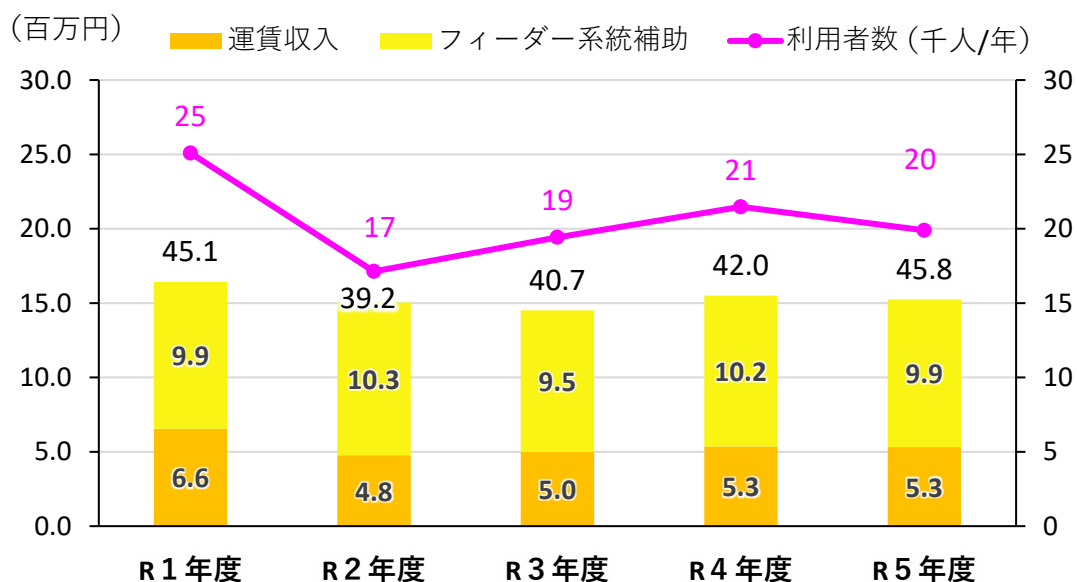


図-7.おでかけなんじいの収入と利用者数の推移

表-4.おでかけなんじいの収入の推移

年度	収入 (千円)		
		運賃収入 (千円)	フィーダー 系統補助 (千円)
R1年度	16,413	6,558	9,855
R2年度	15,041	4,769	10,272
R3年度	14,510	4,986	9,524
R4年度	15,504	5,349	10,155
R5年度	15,245	5,323	9,922